

# CASBEE® - 建築(新築)

# 評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	桃園市民プール	階数	地上2階
建設地	福岡県北九州市	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域、準防火地域	平均居住人員	XX 人
気候区分		年間使用時間	XXX 時間/年
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2020年3月 0.0	評価の実施日	2018年3月12日
敷地面積	18,727 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社 梓設計
建築面積	5,802 m <sup>2</sup>	確認日	2018年3月12日
延床面積	7,081 m <sup>2</sup>	確認者	北九州市役所建築課



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> 温暖化影響チャート	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>BEE = 1.4</b> ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★★★★★</p> <p>30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p><b>標準計算</b></p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 18% ③上記+②以外の 18% ④上記+ 18%</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能 5 Q1 室内環境 4 Q3 室外環境(敷地内) 3 LR1 エネルギー 2 LR2 資源・マテリアル 1 LR3 敷地外環境 1</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b> Qのスコア = 3.2</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b> Q1のスコア = 2.8</p> <p>音環境 3.0 温熱環境 2.3 光・視環境 N.A. 空気質環境 3.5</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b> Q2のスコア = 3.4</p> <p>機能性 3.3 耐用性 3.5 対応性 3.6</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b> Q3のスコア = 3.7</p> <p>生物環境 3.0 まちなみ 4.0 地域性・ 4.0</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b> LRのスコア = 3.3</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b> LR1のスコア = 3.2</p> <p>建物外皮の 4.4 自然エネ 3.0 設備システ 3.0 効率的 3.0</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b> LR2のスコア = 3.0</p> <p>水資源 3.0 非再生材料の 3.0 汚染物質 3.2</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b> LR3のスコア = 3.8</p> <p>地球温暖化 5.0 地域環境 3.5 周辺環境 3.0</p>

3 設計上の配慮事項		
<p><b>総合</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般公認屋内50mプールを設置し、本格的なスイミング環境を整備する。加えて、25mプールや子供向けプールも屋内に一体整備し、一年を通して水に親しめる場所をつくる。</li> <li>外観はカーテンウォールを基調とし、明るい自然光を取り入れながら、透明感ある外観を演出する。</li> </ul>	<p><b>その他</b></p> <p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>	
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>空調条件は、プール室内は夏季は29°C65%、冬期、中間期は30°C60%とする。一般居室は北九州市の基準に法り、夏期28°C50%、冬期19°C40%で設定している。</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>各室の用途ごとの性質を考慮し、メンテナンス性に優れた仕上材を選定している。また、構造耐震性能は25%の割り増しを行い、安全性に優れた建物として計画している。部品・部材の耐用年数は、品確法に定められた等級</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>桃園公園内であるため、周囲の緑や遠景の山々と調和する、なだらかな曲線屋根を採用し、景観に配慮している。また、建物周辺の一般利用者動線には庇を設けて便利</p>
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>コージェネレーションを採用。廃熱でジェネリック吸収式冷凍機を運転してプール室内の冷暖房に利用している。夜間は深夜電力を利用し、効率の良い中温水ヒートポンプでプールの加温冷却に利用している。一般空調は効率の良いマルチヒートポンプ(電氣、ガス方式の混</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>屋外テラスに再生木デッキを採用し、環境に配慮している。また、サイン等に木材を積極的に利用する計画である。</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>&lt;卓越風向きに対する見付面積&gt; Hb=200/30×5.0=33.33m Ws=80.40m Sb=816.35m<sup>2</sup>より、見付面積比=30.46% &lt;隣棟間隔指標&gt; W1=49.6m W2=18.0mより、Rw=2.02</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される